

第1回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議概要

会議名 第1回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議

日時 平成25年11月28日(木) 9:30～11:40

場所 我孫子市役所 議会棟 第1委員会室

出席者 [専門家会議委員] 足立委員・神野委員・野口委員・渡辺委員

[我孫子市] 星野市長・芹澤企画財政部長

[事務局] 大畑企画財政部次長兼企画課長

増田生涯学習部次長兼生涯学習課長・木下課長補佐・高見澤主査長

[関係課] 徳本環境経済部参事兼農政課長・増田農政課主幹

染谷商業観光課長・滝川商業観光課主任・山崎都市計画課長

西沢文化・スポーツ課長

傍聴者 なし

議題等

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介及び事務局職員紹介
- 5 座長及び副座長の選出
- 6 座長あいさつ
- 7 傍聴要領の決定について
- 8 調査研究業務の内容、専門家会議の役割・議題について
- 9 マーケティング調査の中間報告等について
 - (1)我孫子市の現状について
 - (2)本業務に係る市の計画について
 - (3)本市及び市外の文化ホールの状況について
 - (4)市民ニーズについて
 - (5)農産物直売所設置に関する調査の結果について
- 10 今後の日程について
- 11 建設候補地の現地視察

会議概要

1 座長及び副座長の選出

座長に「神野委員」、副座長に「野口委員」が選任された。

2 傍聴要領の決定について

傍聴要領(案)について事務局より説明を行い、承認された。

3 調査研究業務の内容、専門家会議の役割・議題について

事務局より「文化交流拠点施設整備調査研究業務」の内容と専門家会議の役割、今後の協議内容について説明を行った。

4 マーケティング調査の中間報告等について

(1)我孫子市の現状、市の計画、本市及び市外の文化ホールの状況、市民ニーズについて

事務局より市の現状、市の各計画概要、市内外の文化ホールの状況と過去に実施された市民ニーズ調査（我孫子市の新たな文化交流拠点施設に関する各種団体アンケート調査報告書（速報）[平成 25 年 11 月実施]（以下、「団体アンケート調査」という。）市民アンケート調査[平成 23 年 9 月実施] 我孫子市の観光に関するアンケート調査報告書[平成 24 年 9 月実施]）のうち、文化施設に関する項目などについて、説明を行った。

[座長] 市民ニーズ調査のうち、団体アンケート調査では、芸術・文化団体はホールの整備を望んでいる感じを受けるが、市民全体のなかでは、決して要望が高いとは言えない。

[事務局] 文化施設に特化した調査は実施していない。この市民アンケート調査は、市の基本計画策定時に行ったもので、市全体に関わるものをトータル的に質問しており、文化施設を意識した調査ではないことで理解いただきたい。

[委員] 今後の問題になると思うが、施設の機能や規模について、これまでの市の検討では大きいもの（ホールは 1,000 席規模）が想定されており、そうであるとプロの楽団の誘致やホールの音響設備などに関してもクオリティを高くしていく必要があると考えるが、現時点で市の方針はあるのか。

[事務局] 現時点で市の方針はまとまっていない。委員の皆さんには、平成 21 年に庁内で検討した報告書にある 1,000 席規模のホールが、今後人口減少が進む中で本当に必要なのかも含め、有効に活用される我孫子市にふさわしい施設の機能・規模などについて、ご意見をいただきたいと考えている。

[座長] 文化・芸術を我孫子市としてどう捉えていくかということが、この調査研究の大きな要素となる。単にハード面の整備ではないと考える。

[事務局] 施設を整備した時に有効活用されなければならない。施設機能に重点を置いて議論いただきたいと考える。そうすることで、施設の規模やあり方、形状などが見えてくると考えている。

[座長] まずは、というものが、「現にある市民の活動」と「将来こういう方向に伸びて欲しい」という我孫子の目指すべき市民像を設定し、わざわざ行きたいと思ってもらえるような、ホールの性質、機能・規模などを持った市の交流拠点施設となるような議論が展開されることを期待されているという理解でよいか。

[事務局] そのようにお願いしたい。

[委員] 市民ニーズ調査なかで、他のエリアであるとか、他の活動団体と比較した時の全市民に対する重要度等の評価が示されているデータなどはあるか。

[事務局] そこまでのデータはないが、この市民ニーズ調査のうち市民アンケート調査では、市の特徴を良く捉えていて、まさに工業などは低い状況が表れている。我孫子市の弱いところでもある。また、満足度も鮮明に出ており手賀沼などは評価されている。ただ、この結果を何かと比較するということはしていない。

[座長] この調査は、市民から見えているものがここに反映されている。例えば、まちづ

くりに対する評価が低いことは残念であるが、まちづくりのイメージというものがまだ見えていないのかもしれない。現時点で下位に位置づけられているものでも、我孫子の将来を明るくしていく新しい文化交流拠点施設が上位に位置されていく可能性があると考えていきたい。

[事務局] まちづくりに対する評価について、強いところは伸ばし弱いところは補強しながら、まちづくりを進めていきたいと考えている。また、本市は市民活動が活発で新しい施設の使い方として市民発表の場という位置づけは重要であり、この点についてもご意見をいただきたい。

[委員] 例えば、施設を我孫子市のまちづくりにおける「市民の学校」と位置づけ、プロ・アマ問わない活動発表の場とするのか、音楽ホールに特化したプロ仕様の施設とするのか、その意味づけのようなものをここで話し合うのか。

[事務局] ホール機能や規模などについては、まちづくりの方向性と重ねながら整理していく必要があると考えており、その辺を含めた議論をお願いしたい。

[委員] 団体アンケート調査では、ないものについて「何がほしいですか」と聞いても出てこないものもあり、あまり文化・芸術分野の声が低いということ意識する必要はないのではないかと。ないものについて何が欲しいかということではなく、今まであったものや現状どうであるかというところを精査する必要がある。旧市民会館に1,000席のホールがあって、平成19年までの活動実態はどうであったか、閉鎖されたことによってその活動は今どうなっているのか、人はどう流れたのかなど、これまで行われてきた実際の活動実態をつかまえないといけない。また、現在はどこで活動しているのか、新たな行き先を分析していくことが必要である。

[事務局] 旧市民会館閉館後の市民団体の活動状況については、まとめて報告したい。

(2)農産物直売所設置に関する調査の結果について

農産物直売所設置に関する調査について、この調査は、交流というキーワードと市が持つ資源という点を考えた場合、農産物直売所の市民ニーズは、かなり高く、近隣に所在する柏市の「道の駅しょうなん」を見ても分かるように集客する力がある施設という観点から実施したものであること。また、農産物直売所は、市の農業拠点整備計画などにも拠点施として整備するとが位置づけられていること。さらに、市と県の間では水の館の移譲問題があり、地元農家からは、「農産物直売所を水の館内で運営したい」という意見もあることから、文化交流拠点の中に直売所を整備するのか、水の館内に整備していくのか、農産物直売所機能について、ふさわしい立地場所の評価などを先行して行うものであるが、文化交流拠点施設の建設場所を特定するものではないという前提条件など、調査報告書の概要について事務局より説明を行った。

[座長] 我孫子市の現状として、人口減少が課題である。これは、日本全体の課題と言える。

観光振興等もそうであると思うが、我孫子市の特徴として農業は一つの柱に挙げられることが分かる。農業と今回の文化交流拠点施設整備がリンクしているわけではないが、現状の課題を考えると共通点も多いことから農業拠点施設の調査を先行して行ったという理解でよい。

- [事務局] そのとおりである。
- [委員] 近隣の施設、例えば柏市とか印西市などの利用状況が分かれば情報提供して欲しい。
- [事務局] 近隣の状況を確認するとともに、団体アンケート調査を実施した団体の中から、より調査が有効と思われる団体については、ヒアリングを実施する予定である。
- [委員] 農産物直売所の報告で商圈の引き方が円になっているが、円では人の流れが見えない。車での移動であるなら幹線道路沿いに把握するとか、手賀沼が横に広がっているの、南北で範囲を設定するとか検討した方がよい。そういう人の流れの見方をしないとミスリードする可能性もあるので慎重に商圈を捉える必要がある。
- [事務局] 現段階では、広く捉えて最大でこの範囲ということで見ただけであればと思う。
- [座長] 道路事情などもあり難しいと思うが、なるべく実態に沿った形となるようお願いしたい。

(3)文化交流拠点施設の位置づけと必要な機能について

全国の文化施設のなかで、新たに計画されているもの、現在建設が進んでいるもの考えられる機能・規模について資料に基づき、事務局より説明を行った。

- [委員] この専門家会議は施設の機能・規模、整備手法の検討ということであるが、機能をどう位置づけるかによって、運営方法も関わってくる。運営の仕組みをつくらず、箱モノ中心の検討をするのは好ましくない。整備するだけではなく、どういう運営組織をつくっていくのかも、とても重要なことである。市が直接運営していくのか、あるいは外部に管理運営を委託するのかなどを含めて機能を論じていく必要がある。
- 他市の施設などの運営方法も参考にするとよいのではないか。
- [事務局] 運営の仕方についても議論をお願いしたい。また、他市の施設については、調べて情報提供させていただきたい。
- [委員] 他市施設の調査に際しては、所有と運営がどうなっているのか、運営の仕方によって稼働率も変わってくるのでその点も調査いただきたい。
- [座長] 経営重視でいくと文化的な質の低下に繋がる場合もある。どういう条件設定で何を目指すのか考えていかなければいけない。
- [委員] 美術館など文化施設の整備では、同じ自治体と民間の第三セクターという組み合わせでも、善し悪しが分かれるケースがある。この辺の事例も調査いただきたい。
- [座長] 千葉県の文化施設でも4館中2館で民間が運営している。評価は様々であるが参考にできる部分もあるのではないか。また、専門職員の配置が必要であると考えている。専門職員がいないと総花的で面白いことが展開されない。この点も施設のあり方に深く関わってくる気がする。また、内容に関わることであるが、何を対象とするのかというところで「見る」「知る」「演じる」「伝える」という項目に分かれるが、もう一つ最近の文化ホールに関し、重要視されているのが「市民がプロデュースする」ということがあり、これは企画する、運営するといった市民参加でホールの運営をしていくというやり方で、全体として市民自身がどう考えていくかという研修の様なことを千葉市や千葉県文化財団は取り入れており、その要素も必要で

はないかと感じている。

[委員] 機能の面と管理運営手法の検討については、他事例を含めイニシャルコストだけではなく、ランニングコストなどといったマネジメントをしているのか戦略的な取り組みをしているところがあれば参考になると思うので、情報提供していきたい。

[座長] 持続的に発展できるような仕組みをどれだけ作れるかということが重要になると思うので、参考事例を探していただくとよい。

[委員] 農産物直売所の併設は、既に決定しているのか。

[事務局] まだ決まっていない。併設を前提にマーケティングしている。一方で水の館の1階も直売所の候補になっているので、合わせて調査をするということである。

[委員] 併設するのであれば、相乗効果を発揮させるための施設も必要となってくる。早くコンセプトを決める必要がある。そこが決まらないと議論が進まないのではないか。

[座長] 今の直売所のイメージだと、たまたま懸案となっているものという感じを受ける。それではあまり意味がないと思う。アイデアは色々あると思うので、今後の検討が必要である。

[事務局] 全体を見たときに色々な機能が重なって相乗効果を生むということ、これから考えていきたい。

[座長] それはどこで決まるのか。

[事務局] この専門家会議の中で、提案いただくことになる。

[座長] 例えば、この専門家会議で農業との連携は非常に可能性があるという結論を出せば、それを市長に報告するというイメージでよいか。

[事務局] 市の考え方もお示しし、それぞれご意見をいただいてこの会議の中で一番好ましい施設整備はどのようなものなのかを提案いただきたいと考えている。

[座長] 専門家会議としては、「これをやる」「やらない」を含めて提案をしていくということによいか。

[事務局] いろんな提案をいただきたい。

[委員] 我孫子市には、八ヶの道沿いの白樺文学館など、市内に歴史・文化施設が点在しているが、現状これらを総括する施設が無く、既存施設を活かしきれていないので施設間の連携についても考えたほうがよい。

[事務局] 我孫子の資源を活かしながら、点になっているところは線で結び面になるように庁内の検討委員会でも議論していきたい。

以上